

第1回審議会（R7.8.5）の主な委員意見とその対応について

番号	委員名	主な意見	対応状況
1	福井委員 岡田委員 片山委員 大山委員 本田委員	成果指標の見直しについて、 <u>単なる下方修正だけでは十分な効果が期待できない。生産性や人口比といった観点で踏まえた代替的な指標を追加してはどうか。</u>	中間年における達成状況が芳しくない指標（×評価）について、 <u>目標値を下方修正する場合には、追加指標を設定する。</u> 追加指標設定に当たっては、人口減少化における状況を踏まえ、可能な限り、生産性や人口比といった観点を踏まえた指標を検討する。
2	福井委員	<u>国際化を推進するためには、多くの日本人が海外に足を運び、外国の文化や人々に触れることが肝要。そうした観点の取組や指標を明記してはどうか。</u>	<u>施策5－9－1の取組方針・取組内容を加筆。</u> ●取組方針 若い世代のパスポート取得及び海外渡航を促進させ、国際社会に主体的に対応できる能力やスキル態度などを備えた人材育成を進めます。 ●取組内容 異文化交流活動の支援
3	福井委員	<u>教育現場におけるICTの活用は今後益々重要になってくる。生成AIの利用が増える中、どう教育に取り入れていくかが課題。</u>	<u>施策1－3－3の取組方針・取組内容を加筆。</u> ●取組方針 教育現場におけるICT活用及び生成AIに関する学習を推進します。 ●取組内容 教育用タブレット端末等のICT機器の整備及び生成AIの利活用方法を含めた教職員研修の実施
4	福井委員 岡田委員 片山委員 合田委員	市民満足度に関する指標について「どちらともいえない」と回答した人はネガティブな意見ではなく、「満足ではないが現状に特に不満はない」という意見と捉えるべきではないか。そう考えると、「どちらともいえない」と回答する人の半分の「満足」にすることは非常に困難。 <u>むしろ、「不満と回答する人」を「どちらともいえない」まで引き上げることを目標にすべきではないか。</u> <u>指標見直し、目標値設定に当たっては、「やや不満」と回答する人に着目すべき。</u>	指摘を踏まえ、市民満足度調査に関する <u>新たな成果指標を、「〇〇について、不満を感じる市民の割合」とし、その割合を下げることを目標とする。</u> 市民満足度調査の5段階評価（①満足、②やや満足、③どちらともいえない、④やや不満、⑤不満）のうち、④、⑤と回答した人の割合を減らすことを目標とする。 ④やや不満と回答した人の半分（1/2）が③どちらともいえないに移行する水準を目標値とする。

5	合田委員	中間見直しにおいて、新居浜市の未来図（絵）のようなものを掲載しないか。	第六次新居浜市長期総合計画策定時には、小中学生対象に「未来の新居浜市」の絵画を募集し、冊子に掲載したが、今回は、計画の中間見直しであり、同様の取組は予定していない。 次期長期総合計画策定時の参考意見とさせていただきます。
6	大山委員	施策５－８「中間支援組織登録数」の成果指標を「ボランティアセンター登録数」に変更案になっているが、施策２－２の成果指標「ボランティア団体登録数」と同じになるがよいのか。また、記載の目標値に差異がある。	<u>指摘を踏まえ、指標は「ボランティア団体登録数」に統一する。数値も統一する。</u>
7	大山委員	施策４－８「運輸交通体系の整備」のデマンドタクシーの運行について、利用料や割引対象者の見直しは検討しないのか。	運転免許の自主返納者割引については、対象範囲や割引率について、一定の見直しを検討したい。
8	大山委員	施策５－８ ボランティアポイント制度について、復活予定はないのか。	廃止前と同様の形での復活は予定していないが、今後は、ボランティアの実施等、地域ポイントを活用して、全市的に健康づくりができる環境整備や、魅力的なポイント付与方法について調査研究していきたい。
9	大山委員	「ボランティア市民活動センター」と、「市民活動サロン」の位置付け、連携についてどう考えるか。	一元化すれば、ボランティア情報の集約化など、利用者の利便性向上につながる。一元化について検討していきたい。
10	岡田委員	新居浜市でふるさと納税の返礼品を開発する専門家に商品開発を委託したりする取り組みはあるか。計画の見直しにそうした取組が入っているか。	<u>施策３－４－２の取組方針・取組内容を加筆。</u> 現在、運営支援をお願いしている専門家からアドバイス等も受けており、新たな視点での返礼品開発にも取り組んでいく。 施策３－４－２ ●取組方針 にはま営業本部を設置し、ふるさと納税返礼品の開発、トップセールス等に取り組めます。 ●取組内容 ふるさと納税をはじめとする市産品の流通・販売、企業立地、誘客等推進に向けた営業活動
11	岡田委員	若者が一度新居浜を離れても、Ｕターンしてもらうための取組があれば教えてほしい。	雇用の面では、Ｕターンの促進については、企業と求職者とのマッチング機会の充実を行うため、企業説明会の開催や、インターンシップの支援などを実施している。また、全国にはま倶楽部における交流会の開催や、定期発送やメール等による市の情報発信を行っている。

1 2	本田委員	施策1－3 学校教育の充実（成果指標と目標値） 不登校児童・生徒数割合の目標値をどう考えるのか。 追加指標として、 「校内サポートルームの利用者数」をあげているが、全体の人数からすると、かなり割合が少ないのではないか。	<u>指摘を踏まえ、目標水準、追加指標を検討する。</u> <u>→検討結果次のとおり</u> （目標水準） 現況値 5.2%（令和6年度実績値）以上に増やさないことを令和12年度の目標水準としたい。 （追加指標） 「学校以外に専門機関等と関わりのある不登校児童生徒の割合」を追加指標とする。
1 3	片山委員	施策2－3 成果指標の「相談支援事業利用件数」について、減少傾向がみられるが、目標値は据え置き、下方修正は行わないのか。	<u>指摘を踏まえ、目標値の下方修正、追加指標の設定を行う。</u> 現況の実績を踏まえ、最終目標値を7,000件（令和12年度）とする。 また、「障がい者の成年後見制度の利用支援数」を追加指標として設定する。（障がい者の権利擁護、特に高齢化と親なき後の支援の必要性が高まっているため、成年後見制度の利用件数を増やす目標とする。）
1 4	片山委員	施策3－4－4 観光マーケティング機能の導入と受入態勢の充実 「〇〇を検討します」という取組方針や、「〇〇の検討」という取組内容が数か所みられる。計画策定後5年が経過し、今回中間見直しを行うので、検討ではなく、〇〇の実施や、〇〇の導入など、行動フェーズの表現に記載を変更すべきではないか。	<u>指摘を踏まえ、施策3－4－4の取組方針、取組内容の記載内容を見直す。</u> コロナ禍もあり、具体的な取組が進んでいないものもあるが、今後の見通しも踏まえ、行動フェーズの表現に変更する。
1 5	片山委員	成果指標において、「施設の利用者数」というのは大切な指標と考える。 現状、「施設の利用者数」を成果指標に設定している施設において、利用者数の目標をやめて、別の指標に置き換えるのは、個人的には成果指標として弱いのではないか。	<u>指摘を踏まえ、次のように対応する。</u> 「施設の利用者数」も含め、現状、達成状況が芳しくない指標についても、別の指標に置き換える対応ではなく、必要に応じて、①目標値の下方修正を行ったうえで、②追加指標の設定をする。 <u>「施設の利用者数」の成果指標はそのまま残す。</u>

16	東澁委員 (会長)	そもそもなぜ総合計画を策定するのか と言えは、「市民の幸せ」のためである。 S D G s は 2 0 3 0 年を目標とした取 組であるが、その次は、ウェルビーイ ングの時代だと言われている。 今回計画の見直しを行ううえでも、そ この目的をしっかり意識する必要があ る。いま議論している成果指標等の設 定、管理は、目的達成の手段のひとつ である。	計画見直しの目的は、<u>「市民の幸せの実現」、「ウェ ルビーイングの実現」のためであり、その点を意識 しながら見直し作業を進める。</u>
----	--------------	--	---